

東京国立 博物館 ニュース

表紙の名品

「浮彫アプサラス像」

特別展「古代メキシコ

—マヤ、アステカ、テオティワカン」

浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念

特別展「京都・南山城の仏像」

「横尾忠則 寒山百得」展

特別展「やまと絵 —受け継がれる王朝の美—」

「センサーマップ」を使ってみよう

展示と催し物案内
第773号

2023

6・7・8



特別展「古代メキシコ」

— マヤ、アステカ、テオティワカン —

平成館特別展示室 6月16日(金)～9月3日(日)

本展の魅力のひとつが、テオティワカン文明です。世界遺産テオティワカンは、巨大な都市の遺跡です。「死者の大通り」を中心に、ピラミッドや儀礼の場が整然と並ぶ国際都市であり、メソアメリカ全体に及ぶ広い地域と交易を行いました。同時代のマヤ文明にとどまらず、のちに栄えたアステカ文明にも大きな影響を与えました。

本展では「死のディスク石彫」をはじめ、メキシコ国立人類学博物館で常設展示されている主な作品のほか、日本の研究者が調査に携わった「月のピラミッド」「羽毛の蛇ピラミッド」の出土品も多数展示する予定です。どうぞご期待ください。(山本亮)

観覧料：一般2,200円(2,000円)、大学生1,400円(1,200円)、高校生1,000円(800円)
 ※()内は前売料金 ※前売券は5月16日(火)～6月15日(木)までの間、展覧会公式サイト等で販売。
 ※中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。
 展覧会公式サイト <https://mexico2023.exhibit.jp/>
 お問い合わせ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

※本展は事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性がございます。
 ※夜間開館を実施します。詳細は15ページおよび展覧会公式サイト等をご覧ください。



死のディスク石彫

テオティワカン文明、300～550年
 テオティワカン、太陽のピラミッド、太陽の広場出土
 メキシコ国立人類学博物館蔵
 ©Secretaría de Cultura-
 INAH-MEX. Archivo Digital
 de las Colecciones del
 Museo Nacional de
 Antropología. INAH-CANON
 日没を「太陽の死」、日の出を「再生」になぞらえていました



太陽のピラミッド

西暦200年ごろ建造されたアメリカ大陸最大級のピラミッドで上記作品が発見されました

参考画像

浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念

特別展「京都・南山城の仏像」

本館特別5室 9月16日(土)～11月12日(日)

京都府の最南部、木津川流域は南山城と呼ばれます。京都と奈良の間に位置し、両方の文化の影響を受けてきたこの地には多くの優れた仏像が伝わります。

平安時代に広がった浄土信仰を背景に造像された浄瑠璃寺の九体阿弥陀(9段階の極楽往生に関わる9体の阿弥陀如来像)、切れ味鋭い明快な彫りが魅力の海住山寺の檀像、仏像の造形が和様化し始めた時代の特徴を示す禪定寺の巨大な本尊など、各時代を代表する傑作ぞろいです。

本展では5年におよぶ修理を終えた浄瑠璃寺九体阿弥陀のうちの1体をはじめ、南山城に点在する古刹の仏像が東京で一堂に会します。南山城の歴史や文化の奥深さを感じていただけたら幸いです。(増田政史)



十一面観音菩薩立像

平安時代・9世紀 京都・海住山寺蔵
 きめ細かい1本の木から彫り出した像。
 小像ながら強い存在感を放ちます



十一面観音菩薩立像

平安時代・10世紀
 京都・禪定寺蔵
 高さ3メートル近い巨大な像。
 奈良とゆかりの深い寺院の本尊です



阿弥陀如来坐像(九体阿弥陀のうち)

平安時代・12世紀
 京都・浄瑠璃寺蔵
 現存唯一の平安時代の九体阿弥陀。
 本展ではそのうち1体を展示します

展覧会公式サイト <https://yamashiro-tokyo.exhn.jp/>
 お問い合わせ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

「横尾忠則 寒山百得」展

表慶館 9月12日(火)~12月3日(日)

現代美術家・横尾忠則の完全新作101点を、当館で一挙初公開します。テーマは日本、東洋で伝統的画題ともなっている寒山と拾得です。彼らは中国、唐の時代に生きた伝説的な詩僧で、その奇行ぶりから「風狂」ととらえられています。

横尾独自の解釈で再構築した「寒山拾得」シリーズは、彼らが達した脱俗の境地のように、俗世から離れたアトリエで描き出されました。横尾が生み出す寒山拾得は、まさに時空を超越し、あらゆる世界を縦横無尽に駆け巡ります。この「寒山拾得」シリーズを一度にまとめてご覧いただくことで、自由な視覚体験が実感できることでしょう。

(松嶋雅人)



横尾忠則《2022-01-30》2022年
寒山拾得と動物の境は溶けあいはじめ、空間に滲み込んでいるようです



横尾忠則《2022-10-20》2022年
四角形が重なった赤と黒のふたりが宇宙の真理を計算しているのでしょうか

横尾忠則《2021-09-21_2》2021年

寒山は、経巻がトイレットペーパーに置き換わり、拾得は、箒でなく掃除機を持っています

展覧会公式サイト <https://tsumugu.yomiuri.co.jp/kanzanhyakutoku/>
お問合せ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

特別展「やまと絵 —受け継がれる王朝の美—」

平成館特別展示室 10月11日(水)~12月3日(日)

平安時代前期に成立したやまと絵は、以後連続と描き継がれてきました。優美、繊細といったイメージで語られることの多いやまと絵ですが、それぞれの時代の最先端のモードを貪欲に取り込み、人びとを驚かせ続けてきた、極めて開明的で野心的な主題でもありました。

本展は千年を越す歳月のなか、王朝美の精華を受け継ぎながらも、常に革新的であり続けてきたやまと絵を、特に平安時代から室町時代の優品を精選し、ご紹介するものです。「四大絵巻」「神護寺三像」「三大装飾経」など、ここでしか見られない豪華な作品の数々により、やまと絵の壮大、かつ華麗な歴史を総覧し、振り返ります。(土屋貴裕)



●伝源頼朝像

鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵
展示期間：10月24日(火)~11月5日(日)
横幅1メートルを越す一枚絹に描かれた、ほぼ等身大の巨大人物像

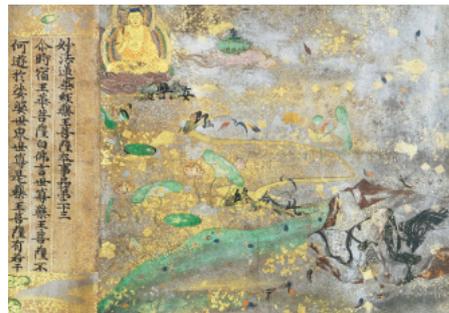


●信貴山縁起絵巻 平安時代・12世紀 奈良・朝護孫子寺蔵 飛倉巻(部分)

説話絵巻の最高傑作。展示替により全3巻を展示します

展示期間：

飛倉巻 10月11日(水)~11月5日(日) 延喜加持巻 11月7日(火)~19日(日)
尼公巻 11月21日(火)~12月3日(日)



●平家納経

平安時代・長寛2年(1164) 奉納
広島・嚴島神社蔵

見返しに平安人物と葦手の景色が描かれた巻をご紹介します

展示期間：

分別功德品 第十七
10月11日(水)~11月5日(日)
やくわう ぼくつぼん じぼん
薬王菩薩本事品 第二十三
11月7日(火)~12月3日(日)

薬王菩薩本事品 第二十三(部分)

展覧会公式サイト <https://yamatoe2023.jp/>
お問合せ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)



特集 虫譜づくりの舞台裏

—栗本丹洲著『千虫譜』とその展開—

本館15室 6月20日(火)～8月20日(日)

本特集は、幕府奥医師・栗本丹洲(1756～1834)の著した『千虫譜』(1811〈文化8〉年序)を中心に、江戸時代後期から明治時代初期にかけてつくられた虫の図鑑、虫譜を紹介するものです。

この『千虫譜』は、日本で最初の虫譜といわれています。原本は現存していませんが、当館には同書の原因と思われる作品や写本が伝来しています。丹洲は、虫の絵を描くだけでなく、絵に添えて、虫をいつ、誰から、何をきっかけに入手したか、また何の文献を参考にし、どのような道具を使って観察したかなどを書き記しました。

本特集では、虫の絵をお楽しみいただくとともに、書き添えられた文章から、虫譜づくりの舞台裏をのぞきます。

(長倉絵梨子)

丹洲独特の力強い字にも注目

はくぶつかんちゆうふ
博物館虫譜
かめ とかげ がまるい
亀・蜥蜴・蝦蟇類

博物館編、栗本丹洲他画
原図：江戸～明治時代・19世紀、製本：明治時代・19世紀
丹洲は、昆虫だけでなくへび、コウモリ、カニなども描いています



(部分)



(部分)

貴重な写本のひとつ

たんしゆうちゆうふ じゆう
丹洲虫譜 上

栗本丹洲著写
明治8年(1875)
どの虫もまるで動いているかのよう描かれています

色鮮やかな小さな虫の描写も見どころ

せんちゆうふ だい に かん
千虫譜 第二巻

栗本丹洲著写
江戸～明治時代・19世紀
徳川宗敬氏寄贈
たくさんの虫が色彩豊かに描かれています。小さい虫の観察には顕微鏡が使われました



(部分)

特集 初期伊万里の粹

—染付から初期色絵まで—

本館14室 5月16日(火)～8月20日(日)

江戸時代初期、1610年代に朝鮮半島からの技術によって肥前有田地域で生産がはじまった日本初の磁器は、伊万里港から運び出されたことから伊万里焼と呼ばれます。本特集では、伊万里焼のなかでも「初期伊万里」をご紹介します。ここでいう「初期伊万里」とは、草創期からの染付を中心に、1660年代に有田の窯場が輸出陶磁生産に移行していく前までの、初期の色絵磁器を含んだ一群をさします。

染付大鉢に代表されるのびやかでおおらかな表現、鉄釉や青磁釉を加えた滋味ある茶陶、鮮やかな上絵具など、近年のご寄贈品や、これまで展示機会の少なかった作品もあわせて展示します。初期伊万里の多彩な表現をお楽しみください。

(横山梓)

近年寄贈された初期伊万里の大鉢

そめつけさんすいず おおぼち
染付山水図大鉢

伊万里 江戸時代・17世紀
坂本一二氏寄贈
中国画由来とみられる山水図が、器面いっぱいのにびやかに描かれています



黄土色の地に白く浮かぶ草花文の粹

おうゆうそめつけそう かもん よ ほうぼち
黄釉染付草花文四方鉢

伊万里 江戸時代・17世紀
山中定次郎氏寄贈
鉄の釉が一部残して全体に掛けられ、内側には陽刻で唐草文が装飾されています



細やかな地文様が美しい九角形のお皿

いろえ かちゆうずきうかくさら
色絵花鳥図九角皿

伊万里 江戸時代・17世紀
広田松繁氏寄贈
京都国立博物館蔵
型作りによる精緻なつくりで、細かく描き込まれた地文様が見事です





特集 藤原定家

—『明月記』とその書

本館3-1室・3-2室 6月27日(火)～8月6日(日)

『新古今和歌集』や『小倉百人一首』の撰者として知られる、藤原定家(1162～1241)は、和歌集や歌学書、平安文学の写本、宮廷の記録・儀式書などを数多く書き残した公家・歌人です。「定家様」と呼ばれる独特な書風は、のちに多くの愛好者と私淑者を生みました。なかでも60年近くにわたって綴られた日記、『明月記』の圧倒的な筆量からは、自らの字を「悪筆」と言いつつ、誤字が少ないことを取り柄と自負していた、定家の書に対する姿勢が浮かび上がってきます。

本特集では、『明月記』自筆本の一部と、定家の出自や歌人としての活動に関わる作品を展示し、その個性を体現した書の魅力をご紹介します。(樋笠逸人、新井恵理佳)

歌壇の重鎮としての日々を綴る

◎明月記 天福元年六月

藤原定家筆 鎌倉時代・13世紀 展示期間：6月27日(火)～7月17日(月)・(日)
勅撰和歌集の編集や歌人の差配をする日々を、典型的な「定家様」で記しています

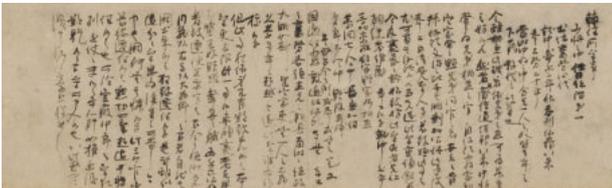


(部分)

朝廷での出世を望む昇進願い

◎申文 藤原定家筆 鎌倉時代・建仁2年(1202)

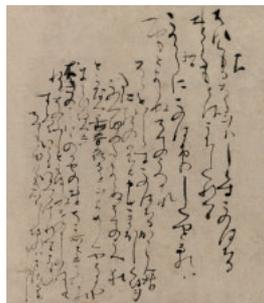
不遇をかこっていた定家が昇進の願いをつづった、41歳の気魄こもる筆跡です



定家特有の癖のない若書き

通具俊成 卿女歌合断簡 (歌合切)

藤原定家筆 鎌倉時代・12～13世紀
定家が義妹夫婦の歌合の判定を書いた、40歳以前の筆跡と考えられています



(部分)

特集 儒教の美術

—湯島聖堂由来の絵画・工芸を中心にして

本館3-1室・3-2室・特別1室 6月27日(火)～8月6日(日)

孔子を祀る建物として建てられた湯島聖堂。後に幕府学問所となり、明治維新後は、当館の発祥である明治5年(1872)の博覧会の会場となり、現在の筑波大学の前身である師範学校も設置されました。当館には湯島聖堂由来の儀式の道具を中心とする儒教関係の美術作品、資料が収蔵されています。

本特集では、それらに中世の孔子像なども加え、儒教の美術の一端をご紹介します。なかでも、孔子をはじめとする21人の儒教の聖人を描いた歴聖大儒像は、狩野山雪の出世作として重要な作品です。明治以来、当館と筑波大学に分蔵されていますが、今回、初めて全21幅揃って展示します。圧巻の姿をぜひご覧ください。(沖松健次郎)

存在感ある孔子の座像

孔子像 (歴聖大儒像のうち)

狩野山雪筆、金世濂賛
江戸時代・寛永9年(1632)
皇帝の礼服を着用した孔子像。穏やかな威厳に満ちた、近世の儒教美術の始まりを飾る名品です



(部分)

聖人に供える食物を入れる台

海藻蒔絵箱

蜂須賀治昭献納
江戸時代・安永4年(1775)
第11代徳島藩主による献納品で、近世漆芸史を考える上でも貴重です



儒教の教えを絵画で伝える

水器図

岡本秋暉筆
江戸時代・19世紀 岡本隆光氏寄贈
水が少なくても多くても傾く器。適量が肝要であることを説く図です



(左幅)

Pick up!

本館

浄土から迎えに来た
麗しき御仏の姿

阿弥陀如来立像

6月13日(火)～9月18日(月・祝)

11室 彫刻



穏やかな
表情を浮か
べて、やや
前傾姿勢で
立つ阿弥陀如来像です。救済すべき人
を西方・極楽浄土から迎えに来た姿を
あらわすこうした阿弥陀像は、鎌倉時
代を中心に数多くつくられました。見
どころの華やかな衣は、鍍金という細
く切った金箔を用いる装飾技法で精緻
な文様を描きます。



(部分)
阿弥陀如来立像
鎌倉時代・13～14世紀

また、両手の掌に輪宝、両足裏には仏
足文を描いています。これが本像の大
きな特徴です。足裏は展示室でご覧い
ただけませんが、仏の特徴と考えられ
た要素をそなえた、まことの阿弥陀如
来が来迎するさまを実感してください。

(児島大輔)

本館

優れた審美眼により
蒐集された稀代のコレクション

黄瀬戸草花文平鉢

7月9日(日)

13室 陶磁

黄瀬戸は灰釉をかけた美濃のやきも
ので、その特有の色味と器面の風合い
から「油揚手」と呼ばれて高く評価され
ています。釘彫りによる素朴な草花文
を緑釉で彩った華やかな印象の鉢です。

これは、大正から昭和にかけて古美
術商として活躍した広田松繁(不孤齋
1897～1973)の寄贈品です。
不孤齋は、昭和22年(1947)から3
回にわたり、およそ500点を当館に
寄贈しました。

没後50年にあたる本年、本館13室の
ほか、本館4室「茶の美術」、東洋館5
室「中国の陶磁」において、広田コレク
ションのやきものを特集して展示しま
す。鑑識眼の高さに裏付けられた質の
高い作品の数々をどうぞお楽しみくだ
さい。



黄瀬戸草花文平鉢
美濃 安土桃山～江戸時代
16～17世紀
広田松繁氏寄贈

(三笠景子)

東洋館

活力に満ちあふれる清々しき
水辺の情景

重文 蓮池水禽図軸

6月6日(火)～7月9日(日)

8室 中国の絵画



◎蓮池水禽図軸 (右幅、部分)
伝顧德謙筆 中国 南宋時代・13世紀

蓮池水禽は、恋愛や結婚、子孫繁栄
などの意味をもつ蓮と、幸福な夫婦生
活の象徴である、つがいの水鳥を組み
合わせた、おめでたい画題です。

池の上に次々と開く大輪の花、力強
く伸びていく茎、大きく波うち、ひる
がえる葉。ここに描かれる植物の造形
は、バイタリテイに満ちています。花
のピンク色と、葉の緑色、鴨の翼の明
るい群青色など、互いを引き立てあう
鮮やかな色づかいは、華やいだ気分を
醸し出します。透き通るように描かれ
た繊細な水草のもつ清涼感も見逃せま
せん。幸せを求める人々の強い気持ち
が反映された「蓮池水禽図」、その豊か
な絵画世界をお楽しみください。

(植松瑞希)

東洋館

優美なるも儂い、悲劇の
皇太子像

ダーラー・シコー胸像

8月1日(火)～8月27日(日)

13室 インドの細密画



ダーラー・シコー胸像
ピーカーネル派 インド
18世紀

インドの世界遺産といえば、だれで
もタージ・マハルを思い浮かべること
でしょう。ムガル帝国の皇帝シャール
ジャハーンが亡き妃ムムターズ・マハ
ルのために建造したエピソードも有名
です。仲睦まじかったふたりの間には
14人の子がいました。長男であった
ダーラー・シコーは、皇帝から溺愛さ
れました。それに対する弟たちの嫉妬
は、その後の彼の人生に影を落とすこ
とにつながりました。

この絵は、さまざまなアクセサリ
で頭や首を飾るなど、皇太子時代の
ダーラー・シコーを描いたと思われるま
す。左手は花を摘まむように宝石を持
ち、右手は楕円形のフレームから出す
など、しぐさも優雅です。

(勝木言一郎)

総合文化展 **Pick up!**

平成館

骨蔵器にほどこされた
2000年前の人物表現

顔面付壺形土器

5月3日(日)

考古展示室



顔面付壺形土器

弥生時代(中期)・前2~前1世紀
茨城県西市
女方遺跡出土
田中国男氏寄贈

まっすぐに立つ人の姿のように見えるこの作品は、70センチメートルほどの大きな壺形土器です。縦長の器の形は体に見立てられており、顔が表現されています。目や鼻、口、耳、顎は立体的に造形され、目と口の周りには刺青と考えられる細かな線刻が施されます。顔面表現をもつ土器は普段使われる土器ではなく、再葬に用いるための骨蔵器であり、弥生時代前半期の日本の各地に認められます。再葬とは、一度土葬した遺体の骨だけ再び葬る行為です。顔面表現は祖先の姿を表したとする説もあります。弥生時代の人物造形と死生観を伝える逸品です。

(菊池望)

法隆寺宝物館

将軍の生母から贈られた
信仰心の表れ

五大明王鈴付属箱

5月20日(日)

第4室 木・漆工



五大明王鈴付属箱

江戸時代・元禄7年(1694)

重要文化財の五大明王鈴(法隆寺宝物館第5室にて通年展示)を収納するための六角形の箱です。江戸時代に法隆寺に寄進されました。五大明王鈴はこの時期、聖徳太子ゆかりの「七種宝物」のひとつに数えられており、元禄7年(1694)に両国の回向院で行われた法隆寺の出開帳に際して江戸に下りました。その際、5代将軍・徳川綱吉の生母・桂昌院から贈られたのがこの箱です。質のよい黒漆塗の地に金蒔絵で、側面に徳川家の三つ葉葵紋、蓋表に桂昌院の里である本庄家の繋ぎ九つ目紋が鮮やかに表されています。他の「七種宝物」にも同じ意匠の揃いの箱がつくられました。

(清水健)

黒田記念館

砂浜に憩う人々、
自然の中の人物群像

海辺の遊び

5月2日(日)

黒田記念室



海辺の遊び

黒田清輝筆 大正3年(1914)

舞台は鎌倉と伝えられています。軽快な装いの人物は、遊ぶ子ども、それを見守る少女たちと男女、海を見る男女、見返る女性という複数のグループに分けることができ、写生風の小品ながら、群像による画面構成が意識されているようです。黒田は1914年(大正3)頃からこの地での絵画制作を本格化させ、働く農婦に取材した作品を続けて文展に発表しました。一方で農耕労働とはまるで逆の「海辺の遊び」が描かれていたことを見ると、果たされなかった「鎌倉連作」のような構想があったのだろうかと、想像をかきたてられます。

(東京文化財研究所・吉田暁子)

トーハクの調査研究 ⑳

博物館の重要な使命のひとつである「調査研究」。その一端をご紹介します。

国際交流の積み重ね、
もたらしたのは「奇跡の再発見」

展覧会の準備の過程では、思いもかけない奇跡が時おり起こります。これまで行方不明だった「五百羅漢図」の50幅目が、ロシアのエルミタージュ美術館で再発見されたこともそのひとつです。

東福寺で活躍した絵仏師・明兆による同作品は、全50幅で描かれた大作ですが、一部が寺外に流出しました。先行研究の情報を基に、当館の国際交流室がもつ広範なコネクションを通じて、ベルリン国立アジア美術館やエルミタージュ美術館に照会をかけた結果、この歴史的発見に至りました。当館では、海外の博物館との交流事業を毎年実施していますが、今回の再発見は、まさにこの事業で築かれたネットワークの賜物。長年にわたる国際的な信頼関係が生み出した連携プレーといえます。(高橋真作)



エルミタージュ美術館で確認された「五百羅漢図」第50号

Photograph © The State Hermitage Museum / photo by Alexander Koksharov.

4
茶の美術

-8/6日
褐釉茶入 銘 木間
瀬戸 江戸時代・17世紀
広田松繁氏寄贈
(関連特集→6ページ)



瀬戸唐津茶碗
唐津 江戸時代・17世紀
松永安左工門氏寄贈
白くチリチリとした器肌と口縁の鉄釉の色が鯨の皮身のように見えることから「皮鯨手(かわくじらで)」と呼ばれます



3-3
禅と水墨画
鎌倉〜室町

6/27日-8/6日
さんすいず
◎山水図
伝周文筆、竺雲等連賛
室町時代・享徳4年(1455)
山本達郎氏寄贈

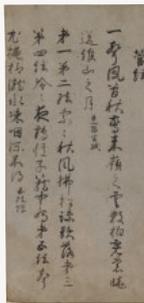


8/8日-9/18日・祝
しょうざんさいしず
◎商山採芝図
一庵一如賛 室町時代・15世紀
墨の濃淡を巧みに使い分けられた作。来日した中国僧が賛を書きました




3-2
宮廷の美術
平安〜室町

-6/25日
わかんろううたいしだいばんかん
和漢朗詠集断簡(法輪寺切)
伝藤原行成筆
平安時代・11世紀



8/8日-9/18日・祝
うけずびらうふ
◎廐図屏風
室町時代・16世紀 岡崎正也氏寄贈
廐の馬とともに、松や桜、亀や鶴など吉祥モチーフをちりばめた作品です



(左隻)

3-1
仏教の美術
平安〜室町

6/27日-8/6日
特集「儒教の美術―湯島聖堂由来の絵画・工芸を中心にして」
(→5ページ)
こうしぞう
◎孔子像
鎌倉時代・13世紀



8/8日-9/18日・祝
じぞう ほさつぞう
地蔵菩薩像
南北朝時代・14世紀
きりりとした端正な顔立ちが美しい地蔵菩薩です



1-1
日本美術のあけぼの
縄文・弥生・古墳

-7/2日
ふかばちがたと き
深鉢形土器
縄文時代(中期)・前3000~前2000年
東京都あきる野市牛沼出土
後藤守一氏寄贈



7/4日-12/3日
しんようけいぎょうよう
心葉形香葉
大阪府茨木市 海北塚古墳出土
古墳時代・6世紀
光り輝く金具は、馬のからだを豪華に飾りたてました



1-2
仏教の興隆
飛鳥・奈良

6/27日-9/18日・祝
じゅういちめんかんのん ほ さつりゅうぞう
十一面観音菩薩立像
飛鳥時代・7世紀
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土
北又留四郎氏他2名寄贈



-10/29日
こうふくじちんざんぐ ぎんてい
◎興福寺鎮金具 銀錠
奈良時代・8世紀 奈良市興福寺中金堂須弥壇下出土
銀の延板です。こうした財宝は寺院の地鎮のために埋納されました



2
国宝室

6/6日-7/2日
ふげん ほさつぞう
◎普賢菩薩像
平安時代・12世紀
鳥取・豊乗寺蔵



8/1日-8/27日
えんちんかいちよう えんちんかんけいもんじよ うち
◎円珍戒牒(円珍関係文書の内)
平安時代・天長10年(833)
円珍が菩薩戒を受けたことを、当時の能書が記した証明書です
(部分)



-7/17(月)・祝

花鳥図屏風

浦上春琴筆
江戸時代・文政6年(1823)
吉祥的な意味合いをもつ
四季の花々や鳥たちを精
緻に描いた、春琴45歳の
作品です



(右隻)

7/19(水)・9/3(日)

長恨歌図屏風

筆者不詳 江戸時代・17世紀



7

— 屏風と襖絵
— 安土桃山〜江戸



-8/6(日)

◎黒漆打刀
(◎太刀 備前一字弘の拵)

室町時代・16世紀 渡辺義介氏寄贈
戦国大名の武田家がライバルの上杉家に
贈ったと伝わる太刀の拵です

-7/30(日)

肩脱二枚胴具足

安土桃山〜江戸時代・16〜17世紀



5・6

— 武士の装い
— 平安〜江戸

-7/30(日)

硝子貼煙草盆

江戸時代・19世紀



色絵朝顔図火入

平佐 江戸時代・19世紀 横河民輔氏寄贈
鮮やかな色絵の朝顔は、側面をめぐり多彩な
姿を見せてくれます

8-1

— 暮らしの調度
— 安土桃山・江戸

8-2

— 書画の展開
— 安土桃山〜江戸

-7/17(月)・祝

鯉図

林十江筆 江戸時代・19世紀
十江は水戸の文人画家。水墨
の濃淡のみで描かれたウナギ
の生動感がみどころです



7/19(水)・9/3(日)

竹自画賛

佐藤一斎筆
江戸時代・天保5年
(1834)
河田燕氏寄贈



6/20(火)・8/6(日)

唐織 紅淡茶緑段檜垣牡丹模様

江戸時代・18世紀
金糸がきらめく
豪華絢爛な唐
織は、楊貴妃に
ふさわしい衣装
です



9

— 能と歌舞伎

8/8(火)・10/1(日)

◎縫箔
茶地百合御所車模様

安土桃山時代・16世紀
奈良・金春家伝来
刺繍と金箔で美麗に模様を
施した女性役の表着です



浮世絵

7/4(火)・7/30(日)

夏衣裳當世美人・
大丸仕入の中形向キ

喜多川歌麿筆
江戸時代・19世紀
老舗呉服屋のこの夏い
ち押し衣裳を市井の
美人にまどわせた、歌麿
最晩年の揃物です



8/1(火)・8/27(日)

○三囲神社の夕立 鳥居清長筆 江戸時代・18世紀

清長得意の
八頭身美人
たちが、行楽
地・向島三囲
神社で夕立
にみまわれ
る場面です



衣装

6/20(火)・8/6(日)

帷子 黒麻地
御簾藤模様

江戸時代・18世紀
旧久留米藩藩士家伝来
元禄期頃に流行した
王朝文学をイメージ
した模様です



8/8(火)・10/1(日)

小袖 白綸子地菊網
文字模様

江戸時代・18世紀
漢詩の文字を散らした模
様が江戸時代前期に流
行しました



10

— 浮世絵と衣装
— 江戸



6・7・8月

本館展示
日本美術の

特別2室

根付 高円宮コレクション

15

歴史の記録

-6/18日

江戸城本丸等障壁画下絵
本丸松廊下

狩野探淵筆 江戸時代・19世紀
松の廊下といえは「忠臣蔵」。廊下を彩る襖絵には浜松に千鳥が描かれていました



(部分)

6/20日-8/20日

特集「虫譜づくりの舞台裏—栗本丹洲著『千虫譜』とその展開」(→4ページ)

丹洲虫譜 上

栗本丹洲著写 明治8年(1875)



(部分)

14

特集

-8/20日

特集「初期伊万里の粹—染付から初期色絵まで」(→4ページ)

錆地染付桃文皿
伊万里 江戸時代・17世紀
上畝俊子氏寄贈



瑠璃地染付蓮図水指
伊万里 江戸時代・17世紀



15

14

13-3

陶磁

-7/9日

青磁陽刻牡丹文三足大皿
鍋島 江戸時代・18世紀



7/11日-10/1日

色絵花鳥図平鉢

伊万里 江戸時代・17世紀 広田松繁氏寄贈
伊万里焼の初期色絵作品で、穏やかな色合いが特徴的です
(関連特集→6ページ)



13-3

13-2

13-2

刀剣

7/4日-9/24日

◎太刀 長船兼光(名物) 福島兼光

長船兼光 南北朝時代・14世紀 渡邊誠一郎氏寄贈
備前長船の名工兼光の傑作で、戦国武将の福島正則が所持しました



7/11日-10/1日

◎雨下猛虎図鐺

奈良利寿 江戸時代・18世紀



11

彫刻

6/13日-9/18日・祝

阿彌陀如来立像

鎌倉時代・13~14世紀
着衣に細く切った金箔を貼り付けて、細かい文様を表しています(→6ページ)



6/13日-12/24日

菩薩立像

香川県大川郡丹生脇屋庵伝来 平安時代・10~11世紀



12

漆工

-7/9日

胡蝶時絵鏡箱残欠

平安時代・12世紀
和歌山県田辺市上秋津高尾山経塚出土
平安時代らしい大きめの金粉が降る中に、蝶が優美に舞っています



7/11日-10/1日

朱漆椀

南北朝時代・明德2年(1391) 白石村治氏寄贈



13-1

金工

-8/20日

金剛鎌菩薩三昧耶形

平安時代・12世紀
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土
北又留四郎氏他2名寄贈



◎銅板鍍出蔵王権現像

平安時代・12世紀 奈良県吉野郡天川村金峯山出土
修験道独自の尊格である蔵王権現を浮彫状に表しています

本号のトピック

本館2階

特集 令和4年度新収品

本館特別1室・特別2室

展示期間：5月30日(火)～6月25日(日)

本館特別1室・特別2室では、令和4年度に新しく当館の収蔵品に加わった文化財のうち、主だった作品を展示します。「文化財の収集」は、当館の最も重要な事業のひとつです。本特集を通じて、その成果と意義をお伝えします。

当館の研究者が所蔵していた銅戈

銅戈は柄に直角に取り付けて用いる武器です。弥生時代中期の初めごろに朝鮮半島から伝来したのち、次第に大きく薄いマツリの道具へと変化していきました。本作品は、薄手ながらも実用的な刃部が研ぎ出されている中細形銅戈です。東京帝室博物館鑑査官・歴史課長を務め、日本考古学の黎明期において武器形青銅器研究の礎を築いた、高橋健自氏の旧蔵品です。(菊池望)



中細形銅戈

出土地不詳 弥生時代(中期)・前2～前1世紀 井越わかば氏寄贈

雪舟が描いたと伝わる貴重な図様

室町時代を代表する水墨画家である雪舟は、48歳から50歳にかけて明への外交使節に随行し、寧波と北京の間を往復しました。本作品は、北京からの帰路の情景を描いたとされる伝雪舟筆「唐土勝景図巻」(京都国立博物館蔵)の図様とほぼ一致します。京博本をはじめとする他の伝本では見られない風景を収める点で資料性が高く、筆致も初発性が強いものです。(高橋真作)



中国真景図巻 (部分)

伝雪舟等筆 室町時代・15～16世紀 徳川義真氏寄贈

さまざまな技法を凝らした豪華な晴着

「小袖」とは現代の「きもの」の原型で、江戸時代には老若男女や身分を問わずに広く日常着として着られていました。本作品は中国産の高級な絹織物である綸子を3色に染め分け、金箔や細やかな刺繍で、大きな橋が架かる景色や草花、吉祥模様などを表します。すき間なく模様を埋め尽くした小袖は「地無」と称されて江戸時代初期に流行し、晴着として用いられました。

(小山弓弦葉)



小袖 染分綸子地小手毬松楓模様 江戸時代・17世紀

-7/30@

アカガーラ(琉球赤瓦)

第二尚氏時代・18～19世紀
沖縄県那覇市 首里城跡出土



8/1@-10/22@

家(チセ)模型

北海道アイヌ 19世紀
ウイーン万国博覧会事務局引継
鉄釘を使わず、木や草など身近な素材を用いて家がつくられました



16

アイヌと琉球



6・7・8月

本館展示

ジャンル別

18

近代の美術

6/13@-9/10@

褐釉蟹貼付台付鉢

初代宮川香山作 明治14年(1881)
第二回内国勸業博覧会出品



7/25@-9/10@

長門峡

松林桂月筆 昭和4年(1929) 松林桂月氏寄贈

ふるえるような墨線で、山口県萩の阿武川の名勝を描いています



みどりのライオン



お知らせ

事前申込制 対面実施

ファミリーワークショップ「伝統もようのお皿づくり」

展示室の作品を参考に、日本の伝統的なもようをスケッチし、それをお皿にデザインします。自分だけのお皿をつくってみましょう！

日時：7月23日(日)・8月6日(日)
 ①10:00~12:30 ②14:30~17:00
 対象：①小学1~3年生とその保護者のペア
 ②小学4~6年生とその保護者のペア

定員：各回6組
 参加費：無料



ワークショップの様子

- *お皿は焼成後、後日郵送します。郵送料はご負担ください。
- *ワークショップは当館ウェブサイトからお申込みください。
- *お問合せ：TEL：03-3822-1111(代)教育普及室

オンライン

ギャラリートーク

「創立150年記念特集 コレクションの探求 はにわ展から50年」

講師：河野 正訓（特別展室主任研究員）

当館所蔵の埴輪に関する調査研究、保存修理などについて多角的に解説します。



「国宝 普賢菩薩像 修理で際立つ夢幻の美」

講師：沖松 健次郎（列品管理課長）

平安仏画の名品、国宝 普賢菩薩像。約3年に及ぶ解体修理が完了し、作品が本来持つ繊細な表現の魅力をより感じられるようになりました。修理のポイントや、修理前後の違いなどを解説します。



「センサリーマップを使って、トーハクを歩こう」

(→マップ詳細は13ページ)

講師：鈴木 みどり（博物館教育課長）
 増田 万里奈（教育普及室アソシエイトフェロー）

光や音の刺激に過敏な方のための「センサリーマップ」を、当館ウェブサイトに公開しました。センサリーマップを使いながら、2名の研究員が博物館の構内をご案内します。



「センサリーマップ」ってなんだほ？

13ページに詳しい説明があるのよ。みてみましょう！



なるほー！ 13ページを見てみるほ！

トーハクキッズデー

昨年度実施した「月イチ！トーハクキッズデー」では、展示室での読み聞かせやお子様向けのワークショップなどさまざまなイベントを実施し、たくさんのお子様にご来館いただきました。初めて当館を訪れたご家族からも、「楽しかった！」「また遊びに来たい」などのご感想をいただくことができました。

今年度も「トーハクキッズデー」を実施します！ このほか、今年度内に「プチキッズデー」を計画中です。どうぞお楽しみに！

実施日：7月30日(日)

対象：0歳~中学生とその保護者(小・中学生だけの参加可)

入館料：一般1000円、大学生500円

- *高校生以下は無料、特別展や有料イベントは別途料金が必要です。
- *イベントの詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



昨年のキッズデーの様子



日本文化にもっと親しもう 日本文化との出会い

海外から日本に訪れる方々に向けて、体験を通して日本文化を知り、親しんでいただくイベント「日本文化との出会い」を実施します。本館特別4室の「日本文化のひろば」に加えて、日本文化を身近に感じることができるさまざまな体験を予定しています。イベントの詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。



過去のイベントの様子



ご自宅等でお楽しみいただけるよう YouTube による動画を配信しています。

※月例講演会は当館大講堂にて実施しております。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



東京国立博物館
YouTubeチャンネル

「センサーマップ」

を使ってみよう!



センサーマップは、
当館ウェブサイトよりご覧いただけます。
トップページ > 来館案内 >
バリアフリー情報 > センサーマップ

センサーマップとは、音や光などの感覚情報を表したマップです。うるさい場所やまぶしい場所が苦手など、特定の感覚が過敏な方は、センサーマップを確認することでその場所を避けたり、事前に対策を立てることができます。

展示館（表慶館を除く）と資料館、庭園を含む当館構内全体の「座れる場所」「音情報」「光情報」の3種類のマップを、当館ウェブサイトに掲載しています。表示する場所と、マップの種類は切り替えることができるので、ご自身に必要な情報を選ぶことができます。

安心して博物館でお過ごしいただけるように、目的に合わせてセンサーマップをご活用ください。

(増田万里奈)

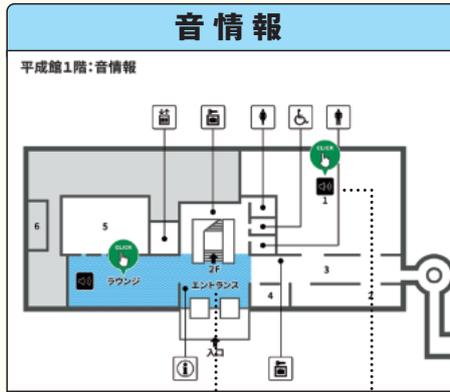
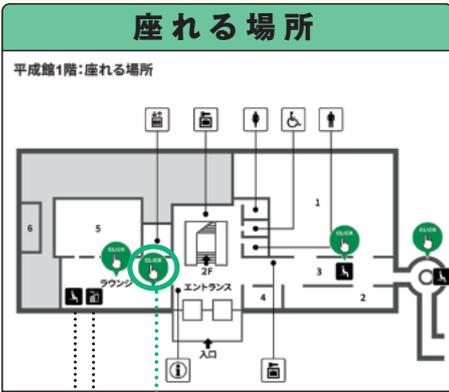
「座れる場所」で椅子がある場所を探したり、静かに過ごしたいときは「音情報」を確認したり、休憩場所を探すのにも使えるのよ!



こういう情報を前もって知ることができるのは安心だほ!

センサーマップの見方

展示館を選択したあと、表示するフロアと、マップ上に表示する情報を、「座れる場所」「音情報」「光情報」の3種類からお選びいただけます。それぞれ、アイコンや色分けで感覚情報が表示されます。下記画像は平成館1階のマップです。



椅子のある場所



飲食のできる場所



この「ふきだし」をクリック(タップ)すると、その場所の詳細を見ることができます



混雑時に騒がしくなりやすい場所など、音刺激の強い場所



音声の出る場所



映像・モニターのある場所



自然光の入る場所



光刺激の強い場所



とうきょうていしつはくぶつかん ひさいかんけいしゃしん
東京帝室博物館被災関係写真

大正12年(1923) 展示期間:7月11日(火)~8月6日(日)
震災後、本館前で撮られた写真です。職員の前には崩れ落ちたレンガが積み重なっています

当時の職員たちの
想いを物語る

復興を象徴する花瓶



せいじちようか ぼたん
青磁貼花牡丹
からくさもん かへい
唐草文花瓶

中国・龍泉窯
元時代・13~14世紀
海運会社辰馬商会寄贈
青磁大花瓶の優品。表慶館
で展示中に震災で破損しまし
たが、後に修理されました

復元模造の意義を問う作品



ぎんどうひるまきたち もぞう
銀銅蛭巻太刀(模造) 三浦助市作 昭和12年(1937)

原品: 国宝、和歌山・丹生都比売神社蔵、平安時代・12世紀
震災後、実物保護と展示充実のために製作された復元模造品です
013

特集 関東大震災と 東京国立博物館

本館 特別2室 7月11日(火)~9月3日(日)



大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災は、東京や神奈川を中心とした南関東一帯に甚大な被害をもたらしました。当館の歴史的な転換期と重なるこの震災から、今年9月で100年の節目となります。当時の様子を伝え残す歴史資料や、実際に被災した収蔵品などを通して、東京帝室博物館における被害の実態を振り返ります。また、昭和12年(1937)11月に竣工した復興本館(現在の本館)の建設、震災を経て大正末期から昭和初期にかけて実施された模写・模造など、関東大震災という難局からの復旧・復興の歩みについてその一端をご紹介します。(黄川田翔)

海外のミュージアムとの交流事業開催

例年開催の海外ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として、2023年2月にZoomにて専門家会議を実施しました。欧米・アジアの11か国31名と当館および法人各館の職員が参加し、「博物館における多様性と社会的包摂」や今後の当館との交流事業について意見交換を行いました。コロナ後の日本美術を媒介とした博物館事業のあり方を考えるよい機会となり、画面越しでしたが、交流の輪をつなぐことができました。次回は対面での交流を実現したいと思います。



「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」ご支援ありがとうございました

本プロジェクトは、2023年3月末をもって寄附の受入を終了しました。寄附総額は目標額を大きく上回る15,396,445円となりました。皆様のご支援に、あらためて御礼申し上げます。「埴輪 踊る人々」と「見返り美人図」については、今後も修理状況や展示情報についてウェブサイトにてお知らせします。



当館ウェブサイト
修理プロジェクト
ページ

TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『DOGU 美のはじまり』
6月14日(水)～10月1日(日)

これまで日本で発見された土偶は約2万点に上りますが、そのうち国宝に指定されているのはわずか5点に過ぎません。それら5点の国宝土偶が、本作で一堂に集結。VR技術で美しく再現された土偶の姿をお楽しみいただけます。縄文人の精神性、造形力、そして美意識が遺憾なく表現された国宝土偶を通して、そこに込められた想いを感じてみてください。



料金：一般・大学生・高校生：600円、小学生・中学生：300円、未就学児・障がい者とその介護者各1名は無料(1作品/1回あたり)、別途入館料が必要です。

※夏休み子どもウェルカムキャンペーン

期間中(7月26日<水>～9月24日<日>)は小学生は無料です。

開演時間までにシアター前券売機にてチケットをお買い求めください(当日券のみ)。※所要時間 約35分

※演目・スケジュール・定員は、都合により変更もしくは休演となる場合がございます。
※詳細、最新の情報はウェブサイト(<https://www.toppa-vr.jp/mt/>)をご覧ください。

手ぬぐいをプレゼント

伊藤若冲自画自刻の「玄圃瑤華」を使用した大好評のポスターデザインの手ぬぐいを10名様にプレゼントします。締切は9月11日(月)必着。

*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

※手ぬぐいは1種類のみです。販売はしていません。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館 広報室「ニュース6・7・8月号」プレゼント係

再入館が可能になりました

当館正門から敷地の外へ一旦退館された場合も、ご来館当日に限り、再度敷地内へ入館いただけるようになりました。再入館をご希望の方は、退館される際に、正門出口スタッフへお声がけください。お手持ちのチケット等に日付印を押印いたしますので、再入館の際、日付印押印済みのチケット等をご提示ください(日付印のないチケットでの再入館はできません)。

羽田エアポートガーデン「TOBI・BITO SWEETS TOKYO」で当館グッズを販売中です

2023年1月にオープンした羽田空港第3ターミナル直結の羽田エアポートガーデン内「TOBI・BITO SWEETS TOKYO」では、三越伊勢丹と当館とのコラボ商品を多数取り扱っています。



海外への出発、日本各地へのバス移動の新たな玄関口、観光地として注目されています。ここでしか購入できない限定品も多く取り揃えていますので、お気に入りの日本美術作品をあしらった商品をご自身や大切な方への贈り物としていかがでしょうか。

営業時間：10:00～20:00

正門プラザミュージアムショップ再開

正門プラザのミュージアムショップが、2023年3月より営業を再開いたしました。正門プラザ内に限り、観覧料なしでご来店いただけます。ぜひお気軽にご利用ください。



営業時間：博物館の開館時間に準じます。

※正門プラザでの取扱商品は全商品の一部となります。

初夏のコンサート ～研ぎ澄まされた美の世界へと誘うピアニスト～

日本メキシコ外交樹立135周年を記念した特別コンサートを開催します。出演は、ジュリアード音楽院で学び、スーザン・ローズ音楽基金賞を2年連続で受賞するなど、その卓越した演奏で高い評価を得るピアニスト、アレハンドロ・ベラ氏です。神秘的で壮麗な世界をどうぞお楽しみください。



日時：6月10日(土)／開演18:00(開場17:40)

会場：平成館ラウンジ

出演：アレハンドロ・ベラ(ピアノ)

料金：5,000円(全席自由)

主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット

〈チケットのお求め方法〉

当館正門チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで)

販売期間：6月10日(土)まで

お問合せ：TEL 03-3822-1111(代)総務課渉外開発担当

*月～金曜日の9:30～17:00(土日・祝日は除く)

*イベントの詳細は、当館ウェブサイトでご確認ください。

6・7・8月の休館日情報

休館日	6月	7月	8月
	5日、12日、19日、26日	3日、10日、18日、24日、31日	7日、21日、28日

※特別展「古代メキシコ」のみ、土曜日は19:00まで開館。6月30日(金)～7月2日(日)、7月7日(金)～9日(日)は20:00まで開館(いずれも総合文化展は17:00閉館)。

※8月14日(月)は臨時開館します。

※開館時間、休館日等の最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

◆東京国立博物館利用案内

総合文化展観覧料金 一般1,000円、大学生500円

- 事前予約は不要です。
※混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性があります。
※特別展の入館方法は展覧会ごとに異なります。
詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。
- 障がい者とその介護者各1名は無料。
満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。

- 敬老の日(9月18日<月・祝>)、文化の日(11月3日<金・祝>)は、総合文化展のみ観覧無料。

*詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジンで!
東京国立博物館ウェブサイト
<https://www.tnm.jp/>



◆東京国立博物館賛助会員(寄附会員制度)募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。賛助会費(ご寄附)は、文化財の購入、修理、教育普及事業など、博物館運営に充てられます。寄附金控除の対象になります。

【主な特典】特別展内覧会へのご招待 など

【年会費】〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上、特別会員 100万円(1口)、維持会員 20万円
〈個人〉プラチナ会員 100万円以上、ゴールド会員 20万円、シルバー会員 5万円

【申込方法】会員受付窓口、ウェブサイト(クレジットカード決済)、銀行振込

*詳細は担当までお問合せください。

◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。

友の会

発行から1年間有効 年会費:7,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショップ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

*本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

*2022年10月18日(火)～2023年12月30日(土)の間に期限切れとなる東京国立博物館の特別展観覧券(会員制度特典)は、2023年12月31日(日)までご利用いただけます。

国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効 年会費:一般2,500円、学生1,200円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能です。

東京国立博物館ニュース定期購読

年会費:1,000円(1年分)

【特典】東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。

*次号(9-11月号)より送付をご希望の場合、締切は2023年8月10日(木)です。

○申込方法

1. 会員受付窓口

当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます(現金またはクレジットカード、電子マネー)。

2. ウェブサイト

専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替(振替用紙を送付))。

3. 郵便振替

- 振替用紙に①種別(友の会、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生<4館共通のみ>)、③メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名(ふりがな)、⑦電話番号を通信欄・ご依頼人欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。

加入者名:東京国立博物館会員制度

口座番号:00140-3-791791

- 友の会または国立博物館メンバーズパス(4館共通)にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。

- 振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。

- 振替手数料はお客様負担となります。

- ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

*一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

*お申込みの際にご提供いただいた個人情報は、当該目的のみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

◎お問合せ:電話 03-3822-1111(代) / FAX 03-3821-9680 総務課渉外開発担当 *月～金曜日の9:30～17:00(土日・祝休日は除く)

キリリとした眉と独特な舞姿。
東南アジア独自の美意識が表された水の精霊

カンボジアのアンコール時代、12世紀末に建立されたバイヨン寺院を荘厳していた天女アプサラスの彫刻です。アプサラスはインド神話に見られる精霊で、その語源は諸説

ありますが、「水の中で動くも」の「雲の海のあいだを行くも」の「など水との関係が深く、アプサラ」とも呼ばれます。ヒンドゥー教聖典のひとつ『ラーマーヤナ』では、神々と



浮彫アプサラス像
アンコール時代・12～13世紀 カンボジア、バイヨン（フランス極東学院交換品）

阿修羅が不老不死の薬を手に入れるために蛇の綱引きを行い「乳海攪拌」を起こした中から生まれてきたとされています。原初においては水流や草木に宿る精霊であったアプサラスは、やがてインドラ神の住む天界で神々のために舞い歌う美しい天女としての性格を帯びていきました。ときには神の思惑によって人間界に遣わされ、人との間に子を成しました。アプサラスのひとつりメーナカーと聖者ヴィシュヴァアミトラとの間に生まれた美しいシャクンタラーは、数奇な運命を背負った女性として『マハーバータ』に登場し、人々に語り継がれています。

な顔に刻まれたキリリとした眉と正面を見つめるアーモンド形の眼は厳かで、インドの女神の喜怒哀楽に満ち豊かな乳房を誇張する官能的な姿と比べると、その姿は控えめでむしろ制約された造形に美意識が感じられます。天女像の間の渦巻は天界の雲海のようにもあり、生命力に満ちた植物の繁茂のようでもあり、アプサラスの舞はあたかもその生命の息吹に呼応するかのようです。

東南アジアの宗教美術は、多くの点でインド美術を祖型としながらも独自の美意識のもとで生み出されました。上下2段の石材に彫刻されたこのアプサラス像は、両脚の膝を強く横に開き、腰をしなせながら両腕をかかげ、上半身を垂直に保つ独特のポーズの舞姿です。小ぶり



バイヨン寺院上部テラス四面祠堂
12世紀末～13世紀
アンコール朝、ジャヤヴァルマン7世が都城の中心に建立した仏教寺院